

◎ 昭和 60 年度 3 役 会 議

と き： 昭和 60 年 9 月 20 日 15:00～16:30

と ころ： 石狩会館 3 階あかしや

出 席 者： 会長 尾崎 晃・副会長 長縄高雄・渡辺 健

幹事長 久保 宏・本会主事 小住勝雄

尾崎会長のあいさつ後、つぎの議事を行った。

議 事

1. 道路トンネル研究委員会の設置について

昭和 60 年度事業として新たに道路トンネル研究委員会を発足させることが検討され、了承された。

2. 昭和 60 年度土木技術会本部経理現況報告

各研究委員会から収入の 5% が納入され、会報印刷・役員会等に支出されているが、収支決算における残高が多額になったためにその活用について検討された。

◎ 昭和 60 年度 役 員 会

と き： 昭和 61 年 5 月 29 日 15:00～17:00

と ころ： KKR 札幌 4 階葛

出 席 者： 会長 尾崎 晃・副会長 長縄高雄・渡辺 健

幹事長 久保 宏・鋼道路橋研究委員会事務局長 青木 弘・コンクリート研究委員会副委員長 太

田利隆・舗装研究委員会事務局長 上井偉啓・道路トンネル研究委員会事務局長 奥山秀樹・本会主

事 小住勝雄

会長のあいさつ後、つぎの議事について検討した。

1. 昭和 60 年度事業報告ならびに昭和 61 年度事業計画

1) 土木技術会本部会計報告

2) 鋼道路橋研究委員会

3) コンクリート研究委員会

4) 舗装研究委員会

5) 道路トンネル研究委員会

2. そ の 他

1) 会報第 12 号の発刊について

昭和 59 年度～60 年度の各委員会の事業報告を掲載し、従来のものより充実した内容とすることにした。

2) 事務局賦金について

本会繰越金の増加に伴い、従来の委員会収入の 5% から 3% に減ずることとし、その差額は会報の送付その他にあててもらうことにした。

3) 事務局の備品の購入について

複写機の購入を事務局で検討することになった。

# 挨拶

北海道土木技術会会長 尾 崎 晃

会報第12号発行に際し一言御挨拶申し上げます。昨年会長をお引受けしてから早くも一年を経過してしまいました。この間の特に大きな出来ごととしては「道路トンネル研究委員会」が新たに発足したことで、これについては本会報にも記事として掲載しておりますので御承知いただけることと存じます。このように現在のところ鋼道路橋、コンクリート、舗装、道路トンネルの4つの研究委員会が中心となって研究、調査、講演会や講習会などを主な内容とする活動を活潑に展開しております。各委員会のこの一年間における活動状況は記事に詳細に報告されておりますのでお読みいただき、相互の連絡を密にしていいただければ幸いと存じます。

古くからの会員の方々には駄足ですが新規に加入された方もおられるので、この機会に本会の趣旨について手短かに触れてみたいと思います。この会は昭和20年代の終り頃に当時第一線の新進気鋭の若手、中堅の学者、技術者の方々が本道土木界の大御所齋藤静脩氏を中心に集り設立した会で、産官学の三者が協力し合い、土木学会などの全国的組織の中にあっては、取り上げ難い地域特有の切実な問題を研究課題として自由に取り組みめる小廻りの利く体制をつくるのが目標だったのであります。したがって名よりも実で、実態は各研究委員会であり、それが即土木技術会であったわけです。しかし年と共に研究委員会の数も増えそれぞれの会員数も増加するにつれて、横の連絡をはかると同時に対外的に一本の窓口の役割りを果たす部門の必要が生じ、規模はごく小さいながらも一応本部という体裁を整えることにもなったのであります。

現在では同様の目的や趣旨を掲げた組織が他にもいろいろ生まれておりますが、昭和30年代にあっては全くユニークな全国的にも珍しい組織でした。それぞれが所属する親学会とは別に大勢の方々が会員として参加して下さいました。時代は移り技術面でも社会環境の面でも本会の設立された当時とは大きく変化してきております。しかしそれに伴って学際的、域際的な新しい問題もいよいよ増える傾向にあり、したがって本会の存在もそれを受けてさらに重要性を増してきたと言えるでしょう。道路トンネル研究委員会の発足などもそのよい証拠ではないでしょうか。

以上ごく簡単に本会のことに言及してみました。巻末に会の規約が載せてあります。目的等は不変ですが設立当時のままのものでありますので細部については問題点も出てまいりました。この辺で一度再検討してはどうかという声も聞えるようです。会員の皆様方から建設的な御意見をお寄せいただければ幸に存じます。

それでは今年度もまたそれぞれの分野で存分御活躍なさいませう御健勝、御発展をお祈り申し上げます。

## 各研究委員会の活動状況

**I. 鋼道路橋研究委員会** (委員長 渡辺 昇, 副委員長 熊谷勝弘, 島 泰, 事務局長 青木 弘, 会員151名  
昭和40年2月設立)

### (1) 設立20周年記念祝賀会の開催

本道の鋼道路橋の発展に産学官の3位1本となって貢献してきた本委員会の設立20周年記念祝賀会が60年9月4日午後札幌市内の石符会館で開かれ、委員会のメンバーと来賓ら80名が集まり、本会の20年を祝った。この祝賀会では、本委員会の設立の功労者で初代委員長を務めた今俊三北大名誉教授への感謝状贈呈式が行われ、病床に伏している今先生に代わり君江夫人が渡辺委員長から感謝状を受けとった。

### (2) 昭和59年度事業報告

1. 文献小委員会 (小委員長 渡 辺 昇)  
「Der Stahlbau」からドイツの鋼橋設計図(1976~1981)を抜すいし、編集印刷製本して会員に配布した。
2. 設計仕様小委員会 (小委員長 熊 谷 勝 弘)  
橋梁の景観に関し、研究会を4回行い、支笏大橋外9橋の写真収集など資料、文献などの収集整理を行なった。
3. 鋼橋写真集編さん小委員会 (小委員長 高 松 泰)  
写真集第5集(昭和55年度~昭和58年度)の発刊準備(編集会議3回)を行なった。
4. 講習・講演小委員会 (小委員長 中 村 明 道)

- 1) 現場見学会 59. 9. 22 於 札幌市 参加者 96名  
 札幌市「山本跨線架設工事現場」において、耐候性鋼使用のUリブを有する鋼床版の説明会と鋼床版現場溶接を見学した。  
 なお、本見学会は(株)東京鉄骨橋梁の後援を得た。
- 2) 講習会 (1) 59. 11. 22 於 建設会館 参加者 71名  
 「溶接欠陥の発生原因」  
 北海道大学 橋本 健一  
 「溶接検査の実際」  
 日鋼検査サービス(株) 高 沖 亮  
 本講習会は溶接学会道支部が主催し、当研究委員会が後援した。
- 3) 映画会 60. 1. 18 於 建設会館 参加者 196名  
 「大渡ダム大橋」 送り出し工法による吊橋補剛トラスの架設  
 「立田大橋」 三径間連続鋼床版桁桁(送り出し工法)  
 「京浜運河橋」 三径間連続鋼床版桁桁の製作と架設(大ブロック工法)  
 「灘大橋」 ニールセン系ローゼ桁橋の製作と架設(大ブロック工法)  
 「因島大橋」 長大吊橋の下部工、塔、ケーブル、補剛桁の建設工事  
 「新茂岩橋」 ニールセン系ローゼ桁橋の製作と架設(ケーブル工法)
- 4) 講演会 (1) 60. 2. 12 於 建設会館 参加者 182名  
 「欧米における公共施設状況」  
 道開発局 内 藤 亨  
 「ケーブルの滑動を考慮した吊橋の地震応答解析」  
 (株)神戸製鋼所 波 田 凱 夫  
 「高燐型耐候性鋼板裸使用橋梁の追跡調査結果について」  
 (株)神戸製鋼所 武 生 博 文  
 「低温度仕様向耐候性鋼用溶接材料について」  
 (株)神戸製鋼所 中 島 清  
 「トラベルクレーンによる桁架設について」  
 (株)神戸製鋼所 西 川 馨  
 「重錘掘削機による工事について」  
 (株)神戸製鋼所 磯 貝 恭 二
- 5) 講演会 (2) 60. 2. 19 於 石符会館 参加者 148名  
 「鉄筋コンクリートの防食について(エポキシコーティング鉄筋)」  
 道開発局 太 田 利 隆  
 「橋梁構造物へのアルミ溶接鋼板の適用について」  
 住友金属工業(株) 木 村 博 則  
 「鋼管矢板井筒基礎の鉄筋コンクリートと鋼管との結合方法について」  
 住友金属工業(株) 山 川 純 雄
- 6) 講演会 (3) 60. 3. 8 於 自治会館 参加者 135名  
 「最近の橋梁の設計、製作、架設の問題点について」  
 東京大学名誉教授 奥 村 敏 恵  
 「長大橋用タワーリンクの設計、製造に係る諸検討について」  
 (株)日本製鋼所 大 淵 昭  
 「防食鋼管杭(クラッド鋼管杭)の開発、実用化について」  
 (株)日本製鋼所 吉 野 勇 一

「ステンレスクラッド鋼の性能と橋梁への適用例」

(株)日本製鋼所 島崎正英

7) 講習会 (2) 60. 3. 29 於 建設会館 参加者 171 名

「鋼橋の架設工法とその選定」

(社)日本橋梁建設協会 佐川潤逸

「ケーブルエレクション直吊工法」

(社)日本橋梁建設協会 佐川潤逸

「トラベラークレーン工法」

(社)日本橋梁建設協会 望月都志夫

「手延式桁送り出し工法」

(社)日本橋梁建設協会 望月都志夫

「大ブロック工法」

(社)日本橋梁建設協会 佐川潤逸

「ベント及び斜吊り併用ケーブルエレクション工法」

(社)日本橋梁建設協会 佐川潤逸

5. 振動小委員会 (小委員長 芳村 仁)

1) 「地盤振動」に関して、耐震グループは4回の研究会を開き、データの収集法と活用法について研究を行なった。

2) 「構造物の耐風設計」に関して、耐風グループは5回の研究会を開催した。

6. 技術調査小委員会 (小委員長 吉田 紘一)

1) 「耐候性鋼材裸使用橋梁と試験調査の概要」をとりまとめ、会員に配布した。

2) 耐候性鋼材及び支圧接合高力ボルトなどに関する意見交換会を行なった。

7. 鋼橋歴史編さん小委員会 (小委員長 上田 義昭)

資料編(その2)作成のため、昭和51年度から昭和58年度までの資料収集および整理を行なった。

8. 事務局 (事務局長 青木 弘)

1) 昭和59年度総会(59. 9. 5)を開催し、総会議事録を会員に送付し、総会決議事項の報告を行なった。また新年度委員の委嘱事務を行なった。

2) 指針など文献の販売、土木技術会本部への賦金(賛助金1,720千円の5%の86千円)の納入、賛助金の取金、各小委員会への支出などの出納事務。

3) 設立20周年記念事業検討のための常任委員会の開催(60. 8. 5)

4) 総会準備のための常任委員会の開催(60. 8. 30)

II. コンクリート研究委員会 (委員長 藤田嘉夫, 副委員長 西本藤彦, 太田利隆, 幹事長 角田興史雄, 会員65名, 昭和31年6月設立)

(1) 昭和60年度事業報告

1. 委員会

第1回委員会 60. 6. 20 自治会館

議事 昭和59年度決算, 昭和60年度予算, その他

解説 エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針案(土木学会)について(太田利隆)  
コンクリートのポンプ施工指針案(土木学会)について(太田利隆)

第2回委員会 60. 1. 24 石狩会館

議事 北海道のコンクリート橋編集委員会の発足, その他

話題 アルカリ骨材反応について(大橋 猛)

2. 幹事会

第1回幹事会 61. 1. 24 石狩会館

第2回幹事会 61. 6. 9 KKR 札幌

3. 示方書検討会

昨年度に続き、土木学会コンクリート標準示方書改訂案の内容について審議し、土木学会に意見書を提出した。

第3回検討会 60. 7. 8 石狩会館

第4回検討会 60. 10. 21 北大工学部

第5回検討会 61. 5. 27 KKR 札幌

4. コンクリート橋編集委員会

61. 5. 20 北海道開発コンサルタント株式会社社会議室

5. 見学会

60. 10. 30

道央自動車道登別地区建設工事(幌別川橋ほか)、新千歳空港建設工事

6. 講演会

第1回講演会 61. 1. 29

コンクリート構造物の温度ひびわれ対策 (小野 定)

最近の水中コンクリート施工法 (河井 徹, 鈴木好実)

映画「ジョイラック工法」

第2回講演会 61. 3. 6

北郷・白石高架橋の設計と施工—PC2主版桁橋, 大型移動支保工, 通年施工 (木村 衛)

美利河ダムの計画と施工—重力コンクリート/ロックフィル複合ダム, RCD工法 (山下弘市)

映画「日本のRCD工法」

III. 舗装研究委員会 (委員長 菅原照雄, 副委員長 松尾徹郎, 幹事長 久保 宏, 事務局長 上井偉啓, 会員 79名, 昭和55年5月設立)

(1) 昭和60年度事業報告

舗装研究委員会は設立以来満6年を経過しましたが、構成する4小委員会のいよいよ充実した事業活動によりその存在は広く全国的に認められつつあります。

すなわち、要綱仕様小委員会においては現行舗装要綱の積雪寒冷地向け運用についての検討に取りかかったのをはじめ、講演講習小委員会では非常に有意義な舗装講演会の実施はもとより、全道主要6都市において開催する舗装技術講習会(1年2都市実施)の2巡めを完了し、舗装史編さん小委員会では遂に待望の北海道舗装史(上巻)を発刊し、さらに下巻の編さん作業に意欲を燃し、また技術研究小委員会においても小規模アスファルト舗装に関する運用指針(建設、維持)の検討を進めるなど活発な事業活動が行われました。

さらに、当委員会は札幌市が社団法人北海道舗装事業協会に委託した札幌市軽交通舗装設計要領(案)の策定業務を引受け、その取りまとめを行うと共に北海道版の刊行について編集作業を行うなど、近年にない実りある成果をあげこの1年を経過いたしました。

1. 会議

(1) 第5回通常総会

昭和60年6月3日(月)

委員総数 79名中 出席委員 53名

議事

第1号議案 昭和59年度事業報告

第2号議案 昭和59年度会計報告及び監査報告

第3号議案 昭和59年度事業計画(案)並びに収支予算(案)

その他

以上について審議し、それぞれ承認可決された。

## 2. 幹事会

### (1) 第1回 昭和60年5月17日

- ア. 第5回通常総会を昭和60年6月3日(月)に開催することを決定した。
- イ. 第5回通常総会の議案について審議し、本案をもって通常総会に上程することを決定した。
- ウ. 委員の委嘱を決定した。
- エ. 総会懇親会の招待者及び委員の会費について決定した。

### (2) 第2回 昭和60年7月29日

- ア. 見学会の実施細目を決定した。
- イ. 北海道舗装史の発刊について、部数、価格、販売計画を審議し、印刷部数2,000部、単価7,000円とし販売先及び贈呈先のあらましを決定した。
- ウ. その他小委員長からの事業経過報告があり、これを了承した。

### (3) 第3回 昭和61年1月24日

- ア. 舗装講演会の実施細目について決定した。
- イ. 舗装技術講習会の実施細目及び講師の原稿料として、別途支給することを決定した。
- ウ. 舗装史編さんに関する慰労金について別途特別委員会を設置し検討することとし、委員長に橋場幹事を選出した。
- エ. その他の小委員長から事業実施情況の報告があり、これを了承した。

### (4) 第4回 昭和61年3月26日

- ア. 昭和60年度の事業実績について取りまとめを行った。

## 3. 小委員会

### (1) 要綱仕様小委員会

「アスファルト舗装要綱」の有効な活用を図るため、舗装の設計、施工において疑問や不明の点について現要綱の補足説明や積雪寒冷地の特殊性を整理して北海道の実情に適したアスファルト舗装要綱「北海道版」(仮題)を策定し、広く全道技術者に活用させる。

#### ア. 第1回 昭和60年11月29日

現要綱の運用における質疑をアンケート調査により集約することとし、案文を作成した。

#### イ. アンケート調査の実施

道内の研究機関、市町村を含む発注機関並びに協会加入会社へアンケート調査票を送付し、1月末に回収した。

#### ウ. 第2回 昭和61年2月14日

429項目(63ページ)の調査票を要綱改定意見、追加、質問、教示、要望、その他、削除の7つの内容別に分類することとした。

#### エ. 第3回 昭和61年3月12日

内容別整理完了した後、今回の作業範囲を質問、教示、要望の3項目とすることを決定した。

### (2) 講演講習小委員会

#### ア. 第1回 昭和60年7月10日

60年度事業計画(見学会、講演会、講習会)の概要を検討した。

#### イ. 第2回 昭和60年7月16日

見学会に関する計画及び下見。

8月23日に見学会を開催することを計画し、当計画案に沿ってコースの下見を行った。

#### ウ. 第3回 昭和60年7月19日

見学会に関し7月16日に行ったコース下見の結果を再検討し、当初計画に沿った最終案をまとめた。

#### エ. 見学会 昭和60年8月23日

下記の箇所を見学し、要所ごとに関係者からの説明を受け、有意義かつ盛会であった(参加者45名)。

\*見学箇所 国道231号創成川、稲積公園橋、小樽臨港線、望洋タウン、朝里ダム、定山溪ダム、石山

陸橋ほか

オ. 第4回 昭和60年9月24日

講演講習会に関する計画

第6回舗装講演会を61年1月28日に札幌市で開催することとし、講師とテーマ及び実施細目等原案をまとめた。

第6回舗装技術講習会を61年2月5日に帯広市で、また61年2月7日に室蘭市で開催することとし、講師とテーマ及び実施細目等原案をまとめた。

カ. 第6回舗装講演会

社団法人北海道舗装事業協会の後援を受けて下記のとおり実施し、有意義かつ盛会であった。

(参加者 官83名、民223名 計306名)

と き 昭和61年1月28日

ところ 北海道自治会館

講師及び演題

\* 欧米の観光開発と道路

北海道札幌土木現業所技術部長 細川 秀人氏

\* 海外の舗装工事にまつわる雑感

世紀東急工業株式会社エンジニアリング室部長 北村 幸治氏

キ. 第6回舗装技術講習会

北海道開発局並びに北海道の後援を受け、社団法人北海道舗装事業協会との共催で下記のとおり2会場で実施し、両会場共盛会裏に終了した。

と き 昭和61年2月5日及び2月7日

ところ 帯広市寿御苑及び室蘭市ホテルセビラス

講師及び演題

\* 舗装のマネージメントシステムに関する話題

北海道工業大学土木工学科教授 笠原 篤氏

\* 道路舗装の維持管理

北海道開発局室蘭開発建設部企画課長 野坂 卓司氏

\* 舗装の維持修繕からみた課題

北海道帯広土木現業所道路建設課長 金森 和男氏

\* 特殊舗装工事の実施例

鹿島道路株式会社札幌支店技術課長 辻本 明人氏

参加者

帯広会場 官 110名、民 106名 計 216名

室蘭会場 官 184名、民 47名 計 231名

(3) 舗装史編さん小委員会

ア. 第1回 昭和60年5月25日

北海道舗装史の発刊作業経過について報告が行われ、販売方法及び贈呈範囲を検討した。

イ. 「北海道舗装史一上巻一」の刊行

舗装史上巻については、昭和59年12月に第1回の原稿を渡して以来、6回にわたり印刷所に送付し3月11日に第1回の校正作業を開始した。初校以来7月13日まで6回にわたる校正後、7月31日付で刊行をみた。

ウ. 第2回 昭和61年1月9日

現在までの舗装史上巻販売状況を報告し、下巻の発刊についての項目等について意見の交換を行った。

エ. 第3回 昭和61年2月3日

舗装史上巻の販売状況(1月24日現在販売数は1,204冊、寄贈数222冊)を報告し、下巻刊行の目標を本

年秋に予定することを決定した。また、巻末に付する資料についての項目について意見の交換を行った。  
オ. 第4回 昭和61年3月24日

下巻の刊行部数を上巻より300冊減じて刊行することとし、グラビアの扱い、「わが舗装記」の扱い、座談会メンバー等について小委員長に一任することを決定した。また、小委員長が転勤した場合の後任人事について検討を行った。

#### (4) 技術研究小委員会

ア. 第1回 昭和60年11月29日

北海道におけるアスファルト舗装の建設と維持のための運用指針を策定するため、設計・材料、施工、管理、維持の4分科会を設置し、各分科会をそれぞれ開催し作成した素案について検討した。

また、軽交通舗装の実情を把握するために実施したアンケート調査の結果について検討し、問題点を整理した。

舗装摩耗研究の最近の動向について昭和60年に行われた道路会議及び土木学会の論文から現状の説明が行われた。

### IV. 道路トンネル研究委員会 (委員長 芳村 仁, 副委員長 西本藤彦・伊藤哲郎・中嶋将博, 事務局長 奥山秀樹, 会員138名, 昭和60年11月設立)

#### (1) 道路トンネル研究委員会設立総会報告

道路トンネル研究委員会は、設立時賛助会員79社、委員136名の賛同を得て、昭和60年11月1日、札幌市内、石狩会館に於いて、出席者102名により設立総会を開催した。

土木技術会 尾崎 晃会長の挨拶に始まり、設立経過説明、規約説明及び承認、役員承認、土木技術会三役、当委員会三役及び小委員長の紹介を経て、芳村 仁委員長の挨拶があり、引続き60年度事業計画と予算の審議が行われ、最後に事務局挨拶をもって終了し、ここに待望の研究委員会が設立の運びとなりました。

規約等の承認事項を以下の通り御報告します。

承認事項;

— 規 約 —

#### 第1条 名 称

本会は北海道土木技術会道路トンネル研究委員会と称する。

#### 第2条 目 的

本会は道路トンネルの研究を通じて、北海道における土木事業並びに土木技術の発展を図ることを目的とする。

#### 第3条 事 業

本会は事業の目的を達成するために民間、学界、官界の有志を結集して次の事業を行う。

1. 重要な問題についての共同調査、研究、審議
2. 講演会等の開催による技術の向上及び普及
3. 会員相互間の調査研究の協力とあっせん
4. 前各号のほか本会の目的を達成するために必要な事項

#### 第4条 事 務 局

本会の事務を処理するために事務局をおく。

#### 第5条 委員会の構成

研究委員会の構成はその都度定め、委員は土木技術会会長の委嘱による。委員の任期は1年とし、再任は妨げない。

#### 第6条 総 会

総会は原則として毎年5月に開催する。又必要に応じ委員長がこれを招集する。

次の事項は総会において承認を受けなければならない。

1. 事業及び会計報告
2. 事業計画及び予算
3. その他

#### 第7条 役 員

本会に次の役員をおく。



委員長1名、副委員長3名、事務局長1名、常任委員若干名、会計監査委員2名。

役員任期は1年とし、再任は妨げない。

#### 第8条 役員を選出

委員長は、土木技術会会長の委嘱により、他の役員は委員長の委嘱による。

#### 第9条 常任委員会

常任委員会の構成は、委員長、副委員長、事務局長、常任委員とする。

常任委員会は、会務を処理するために、必要に応じ委員長がこれを招集する。

#### 第10条 小委員会

本会の事業を遂行するため、必要に応じ小委員会をおくことができる。

小委員長及び副委員長は委員長の委嘱により、小委員会の構成委員は、小委員長の推せんにより委員長が委嘱する。

#### 第11条 会計

本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとし、経費は賛助金、その他をもってあてる。

#### 第12条 規約の変更

規約の変更は総会の決議を必要とする。

附 則 本規約は昭和60年11月1日より施行する。

### (2) 昭和60年度事業報告

#### 1. 技術小委員会

(1) 第1回小委員会(準備会) 60. 10. 24

設立総会のための事業計画及び予算案の作成、委員会メンバーリスト作成。

(2) 第2回小委員会 60. 12. 19

研究テーマ取りまとめの担当者を選任し基本方針を検討。

(3) 第3回小委員会 61. 3. 28

前回小委員会のテーマ別選任者による取まとめの考え方について報告。

a. トンネル台帳作成

b. 既設道路トンネルの変状の調査方法

c. 凍結防止対策

その他小委員会メンバーの増強について検討

#### 2. 講習講演小委員会

(1) 第1回小委員会(準備会) 60. 10. 29

設立総会のための事業計画及び予算案の作成、小委員会幹事会の設置。

(2) 第2回 幹事会 61. 1. 14

日本トンネル技術協会との行事協力について検討したが、後日小委員会独自で行事を行なうことに決定。

(3) 第3回 幹事会 61. 1. 23

講演会開催日を3月7日とし幹事会案を決定。

(4) 第4回小委員会 61. 1. 30

講演会についての幹事会案を承認し、講師、時間割、映画、等を検討。

(5) 第5回 幹事会 61. 2. 10

講演会の会場を確定し、講師、時間割、映画等について最終決定。

2月12日以降、案内、PRを開始した。

(6) 小委員会 61. 2. 28

講演会内容の最終チェック及び動員計画の遂行。

(7) 講演会開催 61. 3. 7 自治会館 13:30~17:00

講演会開会挨拶 道路トンネル研究委員会委員長 芳村 仁

「道路トンネルの現況と計画」 北海道開発局 小渡 敏彦

「道央自動車道美唄トンネル工事施工概要」日本道路公団 太田 正和・大沼 憲昭

映画 一般国道333号浮島トンネル工事記録

関越自動車道 関越トンネル計画編及び施工編

講演会参加者約300人、引続き懇親会が催され約70人の参加があり盛会裏に完了した。

### 3. 事務局

(1) 北海道土木技術会，役員会 60. 5. 21

トンネル研究委員会 設立了承

(2) 設立準備世話人会発足 60. 7. 26

(3) 設立準備世話人会打合わせ 60. 8. 9

(4) 設立準備委員会 60. 9. 20

(5) 委員委嘱，賛助会員の入会要請 60. 9. 25

(6) 設立総会 60. 11. 1

石狩会館にて約100名の出席により規約，事業計画，予算の審議成立をみた。

(7) 幹事会 60. 2. 10

委員長，副委員長，小委員長，事務局長により活動状況の中間報告等を行った。

(8) 会報，創刊号を発刊 61. 3. 31

(9) 常任委員会 61. 4. 21

61年度定期総会開催日決定，60年度事業経過報告及び会計報告，61年度事業計画案及び予算案の審議を行った。

## 道路トンネル研究委員会を発足させて

道路トンネル研究委員会委員長 芳 村 仁

北海道土木技術会の中の新しい研究委員会として昨年(昭和60年)11月に「道路トンネル研究委員会」が発足しました。官界，学界および民間の有志を結集して北海道における道路トンネル技術の一層の向上を目的としています。

トンネル掘削前に力学的に安定なつり合いを保っていた地山にトンネルを掘削・施工して人工的に第2のつり合い状態をつくる過程において，地山の異方性，非均質性，不連続性，湧水現象など他の土木構造物の設計ではあまりみられない多くの不確定な要素に対応する必要があります。複雑な地山挙動の把握と対応，新しい工法に対する研究あるいは北海道固有の問題としての積雪寒冷地におけるトンネルの設計と施工などの諸問題に対し，関係機関が共通の場に立ってよりよいトンネル技術を確立していかなければなりません。また，多くの貴重な資料がトンネル建設の際に得られますがこれらを整理・分析することにより，例えば施工法と岩盤の関係のような分類を試みるのもこの委員会の仕事の一つではないかと考えております。

比較的新しい学問分野である岩盤力学や計測方法・解析の進歩などを背景にこれらの問題の克服に我々土木技術者の活躍が期待されています。この新しい研究委員会の発展のため各界の御協力をお願い申し上げます。

## ◎北海道土木技術会・歴代会長・副会長・幹事長名簿

昭和29～32年度	会長	斎藤 静 脩			
昭和33～38年度	会長	真井 耕 象	副会長	小崎 弘 郎	幹事長 古谷 浩 三
昭和39～48年度	会長	高橋敏五郎	副会長	伊福部宗夫, 古谷 浩 三	幹事長 河野 文 弘
昭和49～52年度	会長	横道 英 雄	副会長	古谷 浩 三, 林 正 道	幹事長 河野 文 弘
昭和53～59年度	会長	町田 利 武	副会長	尾崎 晃, 長縄 高 雄	幹事長 高橋 毅
昭和60～年度	会長	尾崎 晃	副会長	長縄 高 雄, 渡辺 健	幹事長 久保 宏

## ◎北海道土木技術会役員 (昭和60年5月～)

会 長	尾 崎 晃	北海道工業大学教授
副 会 長	長 縄 高 雄	(併)竹中土木常務取締役
〃	渡 辺 健	草野作工(併)技術顧問
幹 事 長	久 保 宏	北海道開発局土木試験所研究調整官
事務局長	小 住 勝 雄	北海道土木技術会

# 北海道土木技術会規約

第1条 本会は土木技術会と称する。

第2条 本会は北海道における土木事業並びに土木技術の進展を図ることを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するため民間、学界、官界の有志を結集して次の事業を行う。

1. 重要な問題についての共同調査、研究、審議
2. 講演会等の開催による技術の向上および普及
3. 会員相互間の調査研究の協力とあっせん
4. 前各号のほか本会の目的を達成するために必要な事項

第4条 本会は本部を札幌市におき、必要に応じ適宜の地に地区会をおくことができる。

第5条 会員は本会の主旨に賛成し入会金500円を納入したものとす。

第6条 会員はその氏名および住所(所属)等変更のあったときは直ちに事務局へ通知しなければならない。

2. 会員は本会が必要と認め請求するときは臨時会費を納入しなければならない。

第7条 会員は本会の目的達成に必要な事項を幹事を通し提案することができる。

第8条 会員は希望により会長の委嘱を受けて研究委員会(第17条～第19条)の委員となり、研究、調査、審議に参加することができる。

第9条 次の事項に該当する者は会員の資格を失う。

1. 本会の会員再確認の通知を受領し必要な手続きを怠った者
2. 第6条の通知を怠ったため連絡のできない者
3. 在会希望の手続きをしないで道外に転出した者

第10条 本会に次の役員をおく。

会長 1名 副会長 2名 幹事長 1名 幹事 若干名(内10名以内を常任幹事とする)  
研究委員会の委員長

2. 役員の任期は1年とし再任は妨げない。

第11条 会長は、本会を代表し会務を総括する。副会長は会長を補佐しその任務を分掌または代行する。幹事長および幹事は、会長の指示をうけて会務を処理する。

第12条 本会の運営に助言を与えるため会長の委嘱により顧問をおくことができる。

第13条 本会の事務を処理するため事務局をおく。

第14条 総会は毎年1回これを開く。

第15条 次の事項は、総会において承認をうけなければならない。

1. 会務ならびに会計報告
2. 会長、副会長の選出

第16条 幹事長、幹事および事務局主事は会長が委嘱する。

第17条 本会は、第3条の目的を達成するため研究委員会をおく。

第18条 研究委員会は、3名以上の会員の要請あるとき、役員会の審議を経て設ける。

第19条 研究委員会には会長の委嘱する委員長をおくものとし、その運営は別に定めるところによる。

第20条 本会の運営に要する諸経費は、入会金、臨時会費、賛助金その他をもってあてる。

第21条 規約の変更は総会の決議を必要とする。

## 附 則

1. 本規約は昭和33年9月17日より施行する。
2. 昭和40年3月 日1部改正。